



布引の滝（伊勢物語画帖）

第45回テーマ:

伊勢物語と布引の滝

講演内容

- ①伊勢物語とは
- ②伊勢物語と阪神間
- ③描かれた伊勢物語

実施日：平成18年12月9日（土）
午後1時～3時50分
場 所：六甲山YMCA
里見ホール



講師：^{あけお}明尾 ^{けいぞう}圭造さん
プロフィール

1961年生まれ。関西大学大学院修士課程修了（日本文化史・近世文化史・教育史）1992年より、芦屋市立美術博物館勤務。現在、学芸課長。

近畿自然歩道の整備はひと段落しました

午前中の整備活動には7名が参加。近畿自然歩道整備のササの刈り残し部分を総仕上げしました。12月にしては暖かく、作業もはかどって予定した部分を全て終えることができました。計4回実施したササ刈りで、近畿自然歩道はすっきりして歩きやすくなりました。

次回の市民セミナーでも整備活動を行いますので、ぜひご参加下さい。

焼き芋を片手に和気あいあい

市民セミナーでは、芦屋市立美術博物館の明尾さんにお話をいただきました。テーマに取り上げられた「伊勢物語」は難しいイメージのする古典ですが、明尾さんはユーモアを交えて分かりやすくお話されました。

YMCAでのセミナーでは恒例となった焼き芋サービスも行いました。暖炉を囲んで焼き芋を食べながら交流を深めました。



焼き芋を食べて記念撮影しました(右端 明尾さん)

平安時代のスローライフに思いを馳せる

明尾さんは伊勢物語の中の芦屋と布引の滝が登場する第87段を中心に講演されました。参加者は平安時代の「スローライフ」に思いを馳せました。明尾さんは伊勢物語などがどのように伝承され、現在の地域社会にどのように影響しているかについてもご紹介され、古文は単なる昔話ではないとお話されました。

博物館は市民が必要だと思えることが重要

交流会では、明尾さんから地域の博物館の課題や取り組みについてお話いただきました。博物館がもつ、地域の文化の礎としての側面と、事業としての側面の両方を成立させるために、市民に必要とされる存在でありたいとお考えでした。

当会も非営利の団体として、社会的価値を生み出す努力を続けたいと思います。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 堂馬 佑太さん

阿保親王塚や業平橋という地名から、芦屋と伊勢物語は関係があるのだと思っていましたが、町名や地名は大正・昭和になってから名づけられたと知って驚きました。

地域の歴史は事実だけでなく、地域の住民の思いによっても形づくられていくというお話を興味深く拝聴しました。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金
公益信託自然保護ボランティアファンド
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会



第45回テーマ：伊勢物語と布引の滝



第45回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13：00～13：05
2. 講演：13：05～14：30
3. 交流会：14：30～15：20
4. 質疑応答：15：20～15：50

講演

- ①伊勢物語とは
- ②布引の滝への小旅行—第87段
- ③描かれた伊勢物語



セミナーの様子

講演の挨拶(明尾圭造さん)

芦屋市立美術博物館で、学芸課長をしています。今日は芦屋と六甲山とのつながりのあるお話として、伊勢物語の布引の滝と芦屋が登場する第87段を中心にお話します。



明尾さん

講演内容

1. 伊勢物語とは

■伊勢物語の中身は知られていません

伊勢物語は、名前はよく知られているが、中身を知っている人はあまり多くない。文庫本で売っていて、すぐに読めるのだが、何が書いているのかはさっぱり分からない。物語の解釈は長く門外不出で伝承されてきたためだ。伊勢物語をどのように読むか、解釈の研究が盛んにされている。

江戸時代には伊勢物語は恋の手引書と言われた。内容の9割は恋愛の話で、1割が地域の話だ。その中に芦屋の話が登場する。

■伊勢物語にちなんだ町名



《在原業平像》

芦屋には伊勢物語に由来する町名が多い。2号線にある「業平橋」は在原業平そのまま。「公光町」は謡曲「雲林院」の主人公で、伊勢物語に恋焦がれた男、「公光」に由来する。

芦屋が伊勢物語と密接に関わっているように思うが、これらの町名は大正・昭和になって

から、伊勢物語にちなんで名づけられたものだ。

■芦屋市内の遺跡

芦屋には在原業平の父の「阿保親王塚」がある。江戸時代には、毛利家がこれが祖先の墓であるとして、必ず参勤交代途上にお参りしていた。

周辺から出土した遺物を鑑定した結果、阿保親王より500年ほど遡る遺跡だと推測された。伊勢物語の話は鎌倉、室町から受け継がれていて、住民の思い入れで、付近にあった大きな墓をいつの間にか阿保親王塚と呼ぶようになったのではないかと。

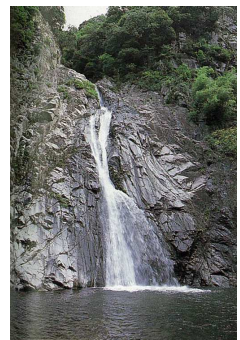
ただし、被葬者が違うからといって、つっけんどんな対応をせず、地域の人が、どのように地域のことをどう考えたかを知り、地域研究者として重要だろう。

2. 布引の滝への小旅行—第87段

■芦屋から布引の滝への小旅行「87段」

伊勢物語の第87段は、在原業平・行平の兄弟が芦屋から布引の滝まで日帰りの往復旅行に行く様子が描かれる。

芦屋の浜の別荘で暮らす業平兄弟は、海で遊んでいるのは物足りないので「布引の滝に見に行こう」と、朝に芦屋の別荘を出発する。滝に着くと2人で短歌を詠んで、帰路には日が暮れていたという短い話だ。



布引の滝(雌滝)

■布引への小旅行は実際にあった？

布引の滝の描写は、水面の岩の様子や、水の流れ落ちる様など、とても細かい。さらに、他の段には出てこない具体的な話が出てくる。男の兄弟が滝を見に行くほど面白くない話はないので、私はこの旅行が本当に行われたものではないかと考えている。

芦屋から布引の滝まで、実際に歩いてみたところ、片道3時間半だったので物語と時間的にも一致する。私は排気ガスで大変な思いをしたが、当時は人家もほとんどなく、侘しいところだっただろう。

地域の博物館の現状と取り組みについてのお話

芦屋市立美術博物館は財政難のため、NPO芦屋ミュージアムというNPO法人に運営委託された。予算は縮小し、学芸員は以前の半分になった。博物館が存続するには市民が残したいと思う存在であることだ。

NPOになり、自己責任で運営しないとけなくなった反面、自治体ではできないことができる。商店街や商工会と提携して、古書の即売会をやったら好評だった。来年はカニの販売もある鳥取県の物産展や、昭和の家電を紹介する展示など、新しい取り組みを企画している。



芦屋市立美術博物館

3. 描かれた伊勢物語

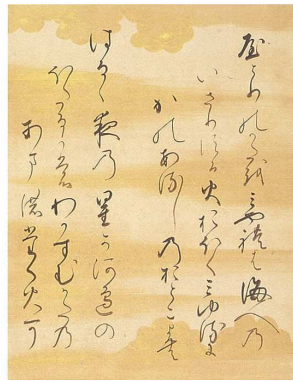
■布引の滝と芦屋の浜がどう描かれたのか

平成12年に、芦屋市立美術博物館の特別展「伊勢物語と芦屋」で伊勢物語の第87段を描いた絵図を全国から集めて展示した。布引の滝と芦屋の浜ばかり数百点を集めたので同じような絵ばかりだが、絵図の伝承が室町時代をはじめりとして、どのように伝承されていったのかが分かって興味深い。

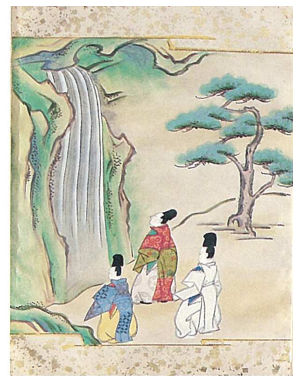
江戸時代に木活字、木版が開発されて、伊勢物語は一般庶民にも広まったが、それまでは一部の人だけが知る、特別なものだった。



《伊勢物語画帖（芦屋浜）》江戸時代



《伊勢物語彩色絵入》江戸時代、
鉄心齋文庫伊勢物語文華館



質疑応答

布引の滝という地名が日本各地にある気がする：布引は「布を引いたような」と意味で、「白絹をかぶせたような」という形容詞なので、特別な言葉ではない。「芦屋」は九州にもある地名だ。

在原業平は本当はどんな人だった？：史実と違うのは、在原業平は武人だということ。六歌仙で出てくるときは必ず弓矢を持っている。お父さんの阿保親王は巨人の清原みたいなごついで人で、業平も優男ではなかったはず。

在原業平はなぜ芦屋に別荘を持ったのか：芦屋は田舎ではあるが、西国街道の本通に面している。都から出て、最初に海に打ち出すところ。

まとめ（明尾さん）

「大岡裁き」という言葉がありますが、良い裁きは全部大岡さんがやったものとして、置き換えられていった歴史があります。業平も同じで、「もてる男なら業平だろう」と、伝播していく過程で何でも業平の話として扱われたのでしょう。業平に由来する芦屋にある地名にしても同じだと思います。

歴史的事実に基づかないとしても、古い物語は、ある地域が現在の文化的基盤を形成するのに重要な役割を果たしてきたのではないのでしょうか。古い物語だと受け止めるだけではなく、地域の歴史や文化の基盤として考えながら読むと、ありがたい話になるのではないかと思います。

古文は外国ではないですから、毎日読むと3ヶ月もすると意味が分かってきます。古文の世界に触れてみてください。

事務局より

1000年以上昔、人家もまばらで、虫が飛び交ったという伊勢物語に描かれた芦屋の浜の様子は今からは想像もつきません。一方で、布引の滝は流れる姿をほとんど変えていないことを知りました。

昔から受け継がれてきた、このような貴重な環境を尊重しつつ、今後の六甲山のあり方を考えたいと思いました。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ
- ・図録『伊勢物語と芦屋』（芦屋市立美術博物館、2000年）



芦屋市立美術博物館
明尾 圭造
〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町 12-25
TEL : 0797-38-5432 / FAX : 0797-38-5434
URL : <http://www.ashiya-web.or.jp/museum/>

◆参加者の声～アンケートより～

- ・焼き芋ご馳走様でした。
- ・打出から布引までの日帰りツアーを企画してほしい。
- ・今では電車ですと行くところを昔は歩いていたんだなあと、感慨深かった。

◆参加者：15名（順不同・敬称略）

明尾 圭造 石田 澄子 岩木美寿雄 亀川 甲
北 郁雄 日下部秀夫 久保 紘一 鈴木 圭子
鈴木 武 豊田 實 水谷 真平 村上 定広
尾崎 尚子 香西 直樹 堂馬 佑太